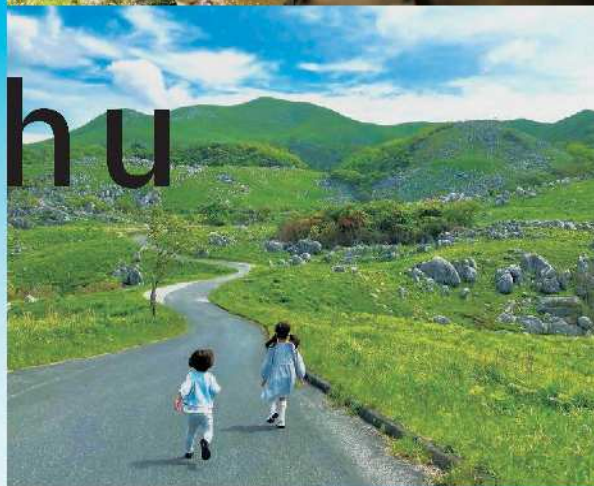


Urban Nature Kitakyushu

(改定答申)



北
九
州
市
生
物
多
様
性
戦
略

2025-2030

令和7年4月
北九州市環境審議会



Contents

第1章 北九州市の生物多様性

北九州市の生物多様性の特徴と魅力	03
北九州市の食の魅力	05
北九州市の多様な生きもの	07

第2章 生物多様性をめぐる 国内外の動向

生物多様性とは	09
生物多様性の損失	10
生物多様性を取り巻く国内外の動向	11

第3章 北九州市のこれまでの取組

北九州市の自然の歴史と公害克服の経験	13
第2次戦略での主要な取組と成果	14
今後取り組むべきこと	14

第4章 北九州市生物多様性戦略 2025-2030の基本的事項

戦略の基本方針と目指す姿	15
戦略の基本的枠組みと位置づけ	15
戦略の基本施策と基本指標	17
戦略の推進体制	19

第5章 主要施策一覧

基本目標1に関連する主要施策	21
基本目標2に関連する主要施策	25
基本目標3に関連する主要施策	27

Photo Gallery	29
---------------	----

Urban Nature Kitakyushu

第1章 北九州市の 生物多様性

工業を主体として産業都市として成長し、九州を代表する大都市として発展を遂げてきた北九州は、先人が守り育ててくれた、都市に近接する豊かで面白い生き物や自然、いわば**アーバンネイチャー**にあふれる街です。



A 若松北海岸

若松区北部につらなる海岸で玄海国定公園に属する景勝地。遠見ヶ鼻や千畳敷といった荒波で浸食された独特の地形が見られる。



C 北九州市響灘ビオトープ

廃棄物処分場の埋立地に雨水がたまり、湿地や草地等多様な環境ができ、そこに希少種を含む多くの生物が生息するようになった奇跡の場所。環境省の重要湿地に指定されている。



B 響灘緑地(グリーンパーク)

若松区の頓田貯水池を中心に山林や草原等の様々な自然環境がひろがる市内最大の公園。花や緑、イベントやキャンプ等、レクリエーションが楽しめる。



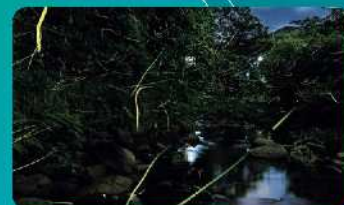
D 皿倉山

北九州市を代表する標高622mの山。北九州国定公園の一部。野鳥や昆虫等、市街地のすぐ近くで、たくさんの動植物等が生息している。



E 合馬の竹林

小倉南区の合馬は、土壌改良や、一年中手間をかけた竹林管理がなされており、良質で美味しいたけのこが獲れる産地である。



F ホタル

北九州市では、ホタルの保護や水辺の保全といった地域活動が盛ん。まちなかの河川でもたくさんのホタルの飛翔が見られる。市内にはホタルをはじめとした水辺の生き物などを展示する2カ所のほたる館が設置されている。



アーバンネイチャー
北九州

Urban Nature Kitakyushu

| Feature01 |

3つの海

瀬戸・関門海峡・固防瀬

| Feature02 |

3つの国立・国定公園

瀬戸内海国立公園・北九州国定公園・玄海国定公園

| Feature03 |

市域面積の約4割が森林

| Feature04 |

渡り鳥の十字路

日本列島を縦断×日本一大陸間を横断

| Feature05 |

希少な生物の宝庫

平尾台・曾根干潟・菅刈ビオトープ



市役所



G 平尾台

3億4千万年前の赤道近くの海の海洋生物(サンゴ、フズリナ)の死骸が石灰岩になったものであり、羊群原が特徴。日本三大カルストの一つ。北九州国定公園、一部、国の天然記念物に指定。



H 関門海峡

九州と本州を隔てる約28kmの海峡。海上交通の要所であり、壇ノ浦の合戦等歴史の舞台にもなった。瀬戸内海国立公園に属する。



I 水環境館

小倉北区の中心市街地を流れる紫川にあり、川・自然・環境について、楽しく学べる施設。川の中を横から見られる巨大な観察窓が特徴。



K 山田緑地

小倉北区南西部に位置する約140haの広域公園。戦時中は軍事施設であったため開発を免れ、広葉樹の自然植生が残る貴重な場所。



J 曾根干潟

環境省の重要湿地であり、面積517haの広大な砂泥干潟。日本最大級のカブトガニの産卵地で渡り鳥の飛来地としても有名。昔から好漁場で現在もカキ養殖等が盛ん。

ヒヨドリ



ハチクマ／ヒヨドリ

北九州市は、国内を縦断する渡り鳥のルートと、中国や朝鮮半島などの大陸間を横断する渡り鳥のルートが交差する「渡りの十字路」に位置しており、渡りの時期には多くの渡り鳥を観察することができる。



ハチクマ

ature
hu



寿司をはじめとした世界に誇る北九州市の食も、豊かな自然の恵みです。地元食材の「地産地消」を推進することは、多くの生きものがすむ海、川、山、農地などの生物多様性の保全に貢献することに加え、農林水産業の振興や地球温暖化対策にもつながるなど、たくさんのメリットがあります。



北九州市では、2024年8月に設立された「すしの都 北九州協議会」と連携し、北九州のすし文化を広く発信していくとともに、国内外からの交流人口の拡大につなげ、「すしの都」の実現と、都市の魅力向上を目指しています。また、総務省の統計によると、「刺身盛合わせ」の消費金額(2人以上世帯における都道府県庁所在市及び政令指定都市のランキング)で北九州市が1位となるなど、広く市民に魚食文化が根付いています。

美味しい鮓をにぎるためには大事なことが3つあります。

1 「魚のクオリティ」

魚が美味しく育つには、暖流と寒流の交わる場所「潮目」が必須です。大規模な潮目は世界で3つの地域にしか存在せず、その内の1つである日本近海には、北九州界限と三陸沖の2カ所に点在しています。

2 「鮮度」

鮮度が良いうちにすしネタに調理することが非常に重要です。市場には「産地市場」と「消費地市場」の2種類があり、両者には「鮮度タイムラグ」があります。北九州市は全国でも稀に見る「都市型産地市場」であり、水揚げされたての魚を鮮度抜群の状態で鮓屋が手にすることができます。

3 「豊富な魚種」

海洋生物の大多数は浅い海「大陸棚」に生息しています。北九州市は響灘、周防灘、関門海峡と3つの海に囲まれています。いずれも大陸棚となり、豊富な魚種と漁獲量に恵まれています。大陸棚と潮目、魚の鮮度、この3つの条件が揃っている都市は世界でも北九州以外にはなく、まさに「すしのローカルガストロノミー^(※)」に最も相応しい街といえます。

※ローカルガストロノミーの土地の気候風土・伝統文化を料理に表現すること



すしの都
北九州協議会 会員 船橋氏

Nature's Gifts

北九州市の食を支える豊かな自然の恵み



豊前海一粒かき(マガキ)

豊前海の豊富な栄養で育まれたカキ。この中から厳格な衛生基準をクリアしたもの。冬が旬。



豊前本ガニ(ガザミ)

豊前海で漁獲されるガザミの中でも特に身入りの良いもの。秋頃が特に美味。



関門海峡たこ(マダコ)

関門海峡の激しい潮流のため足が太く短く、吸盤が足先までであるのが特徴。歯ごたえがよく旨い。



合馬たけのこ

小倉南区「合馬」で収穫される。旬料理の本場・京都、大阪の一流料亭で指名されるほどの名品。



若松潮風[®]キャベツ

若松区を代表する農産物。ミネラルを含む玄界灘の潮風をあびて育った甘くおいしいキャベツ。



若松潮風[®]プレミアム

甘さとみずみずしさ、シャリ感を保つために土づくりにこだわった、糖度の高い大玉すいか。



若松水切りトマト

与える水を制限する栽培方法により、甘みが濃縮され、果物並みの糖度と旨みが特徴のトマト。



大葉しゅんぎく

北九州市では古くから親しまれている野菜。葉先が丸くギザギザの切れ込みがない品種。



小倉牛

北九州市内で丹念に育てられた絶品の黒毛和牛。料理人から絶大な信頼を得る一級品。



一本槍(ケンサキイカ)

福岡で夏のイカといえば本種。身が柔らかくて味が良い。漁期:5月~8月



藍の鮭(サワラ)

全長1mを超える大型魚。冬~春は「寒サワラ」と呼ばれ、特に味が良い。

アカモク
藻場を形成するホンダワラ類の一種。強い粘りと歯ごたえのある食感が特徴。



身近なところにある様々な自然に、個性豊かな多様な生きものが生息しています。

ここでは、そんな魅力的な「市民」の仲間の一部をご紹介します。



ミサゴ

(環境省:準絶滅危惧)

- ・主食が魚の白いタカ
- ・上空から豪快に水面へダイブし魚をとらえる
- ・白鳥等で繁殖



クロツラヘラサギ

(環境省:絶滅危惧IB類、福岡県:絶滅危惧IB類)

- ・ヘラ状の長いクチバシが特徴「サギ」ではなくキの仲間
- ・主に冬鳥だが、曾根干潟周辺では渡らない個体が同年みられる



トビハゼ

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:絶滅危惧II類)

- ・干潟上を飛び跳ねるハゼ
- ・市内では曾根干潟等、瀬戸内海側の河口や干潟に多い



ヘナタリ

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:準絶滅危惧)

- ・内湾の砂泥底に生息する3cmほどの細長い巻貝
- ・曾根干潟では、今でも多数生息



シオマネキ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧IB類)

- ・雄が片方の巨大なハサミを振って雌を誘う行動が「潮まねき」の由来
- ・内湾、河口域の泥干潟に生息



ハクセンシオマネキ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)

- ・雄のハサミは片方が巨大で白い
- ・曾根干潟では大野川河口の砂洲や海床路周辺で見られる



ツクシガモ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:準絶滅危惧)

- ・冬に筑紫地方でよくみられる大型のカモ
- ・曾根干潟は本種の代表的な越冬地



ズグロカモメ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)

- ・夏羽は頭が真っ黒になるので「ズグロカモメ」
- ・毎年200~300羽が曾根干潟で越冬
- ・ギラヴァンツ北九州のマスコットキャラクター「ギラン」のモデル



イチョウシラトリ

(環境省:絶滅危惧I類、福岡県:絶滅危惧IB類)

- ・内湾奥の泥干潟に生息する真っ白な二枚貝
- ・県内では曾根干潟、今津干潟で確認



ダイシャクシギ

(福岡県:絶滅危惧II類)

- ・細長いクチバシを持つ人型のシギ
- ・曾根干潟で越冬する代表的な冬鳥



ハマボウ

(福岡県:絶滅危惧II類)

- ・市内では若松や岡防灘の河口、海岸にみられる
- ・玄海国立公園の指定植物



ミドリシャミセンガイ

(福岡県:準絶滅危惧)

- ・緑色の殻をもつが、二枚貝ではなく陸足動物
- ・古代から形が変わらない「生きた化石」
- ・有明海では食用



コアマモ

(福岡県:希少な植物)

- ・多年生、海草類
- ・内湾や河口域の浅い砂泥底に生育し、アマモ場を形成



イチイガシ

- ・常緑高木
- ・独特の形と風格があり姿が美しい
- ・北九州市のシンボルツリー



スナメリ

(福岡県:準絶滅危惧)

- ・北九州周辺の海域に生息する小型のハクジラ類
- ・スナQのモデル



平成27年12月の出版(環境省レッドリスト2012、福岡県の希少な野生生物(福岡県レッドデータブック))



カワセミ

- ・水辺に生息する青が鮮やかな小鳥
- ・素早いダイブで魚を捕らえる
- ・1960～1970年代の市内では幻の鳥といわれるほど減少
現在では数は多くないが市内の水辺各所でみられる

ベッコウトンボ

(環境省:絶滅危惧IA類、福岡県:絶滅危惧IA類)

- ・響灘ピオトープのシンボル種、成虫は4～5月にみられる
- ・ヨシ、ガマ等が茂る池沼に生息するが国内の生息地は数か所に限る
- ・種の保存法により採集が禁じられている



ルリモンハナバチ

- ・体色は黒で青緑色の斑紋が美しい「幸せを呼ぶ青い蜂」といわれている
- ・市内では、山田緑地、県営中央公園等でみられる



オシドリ

(環境省:情報不足、福岡県:準絶滅危惧)

- ・カモのなかま、雄の冬羽は鮮やかな橙赤色
- ・市内では小倉南区の道原貯水池、昭和池等でみられる



ハチクマ

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:準絶滅危惧)

- ・「ハチ」を主食とするタカ
- ・夏鳥で、北九州は春・秋の渡りルート上にある



カスミサンショウウオ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)

- ・九州の里山を代表する止水性の小型サンショウウオ
- ・第二種国内希少野生動植物種



チュウヒ

(環境省:絶滅危惧IB類、福岡県:絶滅危惧IA類)

- ・広いヨシ原に生息するタカ
- ・国内での繁殖は局地的だが、北九州では若松等で確認
- ・国産車の「ハリアー」は日本語で「チュウヒのなかま」

アサギマダラ

- ・長距離移動する「渡り蝶」
- ・市内では、白野江植物公園、山田緑地、若松北海岸等に飛来



トノサマガエル

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:準絶滅危惧IB類)

- ・代表的な水田のカエル
- ・近年、平地ではほとんどみられなくなった

カブトガニ

(環境省:絶滅危惧I類、福岡県:絶滅危惧IA類)

- ・太古の昔から姿かたちが変わらない「生きた化石」
- ・曽根干潟は国内有数のカブトガニ産卵地



コガタノゲンゴロウ

(環境省:絶滅危惧I類、福岡県:絶滅危惧I類)

- ・「コガタノ」とあるが、県内最大のゲンゴロウ
- ・響灘ピオトープ等、水生植物の多い止水域等に生息



カゼトゲタナゴ

(環境省:絶滅危惧IB類、福岡県:絶滅危惧IB類)

- ・九州西北部にのみ分布する小型のタナゴ
- ・近年、紫川ではみられなくなった



カヤネズミ

(福岡県:絶滅危惧II類)

- ・日本最小のネズミ
- ・ススキ等イネ科植物が繁茂した草地に生息、葉で丸く編んだ巣(球巣)を作る



ガシヤモク

(環境省:絶滅危惧IA類、福岡県:絶滅危惧IA類)

- ・「葎」ではなく沈水性の多年草
- ・国内の自生地は北九州市、つがる市、鳥取市の3か所のみ



トバタアヤメ

(福岡県:準絶滅危惧)

- ・アヤメの変種で小型
- ・和名にも学名にも「トバタ」がつく
- ・戸畑区内の公園等で大切に育てられている

絶滅のおそれのある種のカテゴリー

野生絶滅	飼育・栽培下あるいは自然分布域の外側で野生化した状態のみを記録している種
絶滅危惧I類	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧II類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧III類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧IV類	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足	評価するための情報が不足している種

北九州市に生息する多様な生きものたち

Flora and Fauna